



青梅総合医療センター通信'25年版

2025(令和7)年12月15日発行

発行 市立青梅総合医療センター 事務局総務課・広報サービス委員会

市立青梅総合医療センターの現状とこれから

院長 大友 建一郎



日頃より市立青梅総合医療センターに温かいご支援をいただき、心より感謝を申し上げます。ここでは、令和2年より進めております新病院整備事業の現状と、私どもがめざす市立青梅総合医療センターについて述べたいと思います。

1) 本館開院後の診療の状況について

令和5年11月に新病院本館が稼働開始して約2年が経過しました。救急科医師は7人に増え、院内診療科と協力して365日24時間の救命救急医療を担っています。令和6年度の救急外来の患者総数は21,972人、救急車受入れは5,724台とそれぞれ過去最高となり、救急車の受入れ応需率は多摩地区8箇所の救命救急センター中で第1位、ヘリ応需も37件と著増しています。小児科も西多摩医療圏唯一の24時間対応小児救急病院として年間5,000人近い患児を受け入れています。

がん診療は、東京都の地域がん診療連携拠点病院として、年間のがん手術は630件、うち約6割を体にやさしい腹腔鏡下や胸腔鏡下の手術で行っています。手術支援ロボット（da Vinci）による手術も外科、泌尿器科、産婦人科、呼吸器外科など年間140件を超えました。抗がん剤による化学療法は22床に拡充した外来治療センターで年間6,600件を行っています。放射線治療では本年8月より強度変調放射線治療（IMRT）を開始しました。放射線の強さを変化させながら多方向から照射する治療法で、周囲の正常組織への影響を最小限に抑えつつ、がんに集中して放射線を当てることができるため、前立腺がんなど体の深いところのがんに効果を発揮します。がんの診断に威力を発揮するPET-CTと組み合わせ、診断から手術、化学療法、放射線治療と一貫したがん治療が可能となっています。

また、高齢化社会を迎えて増加する心筋梗塞や脳梗塞などの心臓血管疾患、脳血管疾患に対しても、これまで同様に循環器内科、脳神経外科を中心に365日24時間の診療を行っています。産科では麻酔科医の協力を得て10月から無痛分娩を開始しました。新病院整備事業の方針として掲げた「救命救急センターのさらなる強化」、「高度急性期医療・高度専門医療の強化・拡充」は、順調に進んでいると考えています。

2) 新病院整備事業の現状と今後について

本年度は、これまで救命救急センターがあった西側の「旧新棟」を「西館」として改修しました。本館との間は「渡り廊下棟」で結ばれ、4月には渡り廊下棟の本館接続部分（1階ファミリーマートの奥）で講堂を本格的に使用開始しました。毎月、市民健康講座として「おうめ健康塾」を開催しておりますので、是非お立ち寄り頂けれ

ばと思います。また、夏には5階に緩和ケア病棟、4階にこころの診療科（旧精神科）病棟が開棟しました。緩和ケア病棟については本誌の2、3面をご覧ください。3階に移転したりハビリテーション室では新しく外来心臓リハビリテーションが開始となっています。

来年度以降は、残っている旧東棟・旧西棟を解体し駐車場とする外構整備を行っていく予定です。建設業の働き方改革などの影響でグランドオープンは予定より遅れが見込まれますが、令和11年度末のグランドオープンを目指して安全に工事を進めてまいりたいと思っています。

3) 市立青梅総合医療センターのめざすところ

新病院本館開院にあたり、病院ホームページのキャッチコピーを「よかった、この病院で」としました。ここには、「患者さんに選んでもらえる病院」、「職員が誇りを持って働ける病院」を目指したいという思いが込められています。医療はサービス業であり、質の高い医療を提供することは当然ですが、同時に患者さん・ご家族に満足していただくことが最も大切であると考えています。患者さん・ご家族に「この病院にかかってよかった」と思ってもらえるように、安全・安心な医療を提供する努力を続けていきたいと思っています。また、同時に、当院で働く職員に「この病院で働いてよかった」と思ってもらえることも大切であると考えています。そのためには、なるべく多くの職員の声を聴いて働きやすい環境を作り、職員がやりがいや幸せを感じられる職場にしたいと思っています。

これからも市立青梅総合医療センターをよろしくお願いいたします。



グランドオープン予想図

市立青梅総合医療センター院長テレホン

病院運営などについて、ご意見やご要望などを院長が電話でお受けします。詳しくは、「広報おうめ」毎月1日号をご覧ください。

青梅市生涯学習まちづくり出前講座

西多摩地域における当院の役割と新病院整備事業について、院長が出前講座をいたします。詳しくは、青梅市教育委員会ホームページをご覧ください。

無痛分娩開始のお知らせ

産婦人科

当院では妊婦の皆さまがより安心して出産に臨めるよう、2025年10月より「無痛分娩（硬膜外麻酔および脊髄くも膜下麻酔）」の提供を開始いたしました。当面の間は経産婦さんのみを対象に、計画分娩で行います。

無痛分娩とは、出産時の痛みを軽減するために麻酔を用いる方法です。背中の中へ鎮痛薬を直接注入したり、注入するための管を入れ、分娩まで適宜鎮痛薬を追加したりします。これは無痛分娩のときだけに用いられる方法ではなく、手術や手術後の痛み止めの目的で日常的に使われている方法でもあります。

痛みへの不安が軽減されることで、出産に対する精神的な負担が和らぎ、より穏やかな気持ちで赤ちゃんを迎えることができます。また、体力の消耗を抑えられるため、産後の回復もスムーズになる傾向があります。

全国的に無痛分娩を行う医療機関は増加しています。東京都では2023年の分娩56892件のうち19342件が無痛分娩で行われており、実に約3割の方が無痛分娩をされています。しかし西多摩医療圏ではこれまで無痛分娩を取り扱う医療機関がわずかしがなく、小児科、麻酔科、救急科をもつ総合医療センターでの無痛分娩を望む声が年々高まっております。

当院では麻酔科専門医と産婦人科医が連携し、安全性を最優先に、母体と赤ちゃんへの影響を最小限に抑えながら分娩をサポートいたします。

メリットの多い無痛分娩ですが、まれに起こる合併症への不安をお持ちの方もいらっしゃると思います。より詳しく知りたい方はJALA（無痛分娩関係学会・団体連絡協議会）のホームページ（<https://www.jalasite.org>）などもご覧になってみてください。

病院ホームページの「無痛分娩について」にもご説明を掲載しております。

また、東京都は2025年10月より無痛分娩費用助成事業を開始し、都民の方には硬膜外麻酔を用いた無痛分娩に対し10万円の助成金が交付されることとなりました。詳しくは東京都福祉局 無痛分娩の項目をご覧ください。

無痛分娩をご希望、ご検討の方は、妊婦健診時に医師または助産師へお申し出ください。皆さまの出産がより良いものとなるよう、スタッフ一同、心を込めてサポートいたします。



無痛分娩関係学会・
団体連絡協議会HP



当院HP
無痛分娩について



「その人らしさ」を支えるケア ＝当院での緩和ケアへの取り組み＝

“緩和ケア”とは「生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者さんとそのご家族の、身体的・精神的な苦痛を和らげ、生活の質を保つためのケア」とされています。日本では治癒が難しくなった患者さんへのケアとして1970年代に始まりました。緩和ケアと聞くと「もう治療ができなくなったときに受けるもの」「医師が治療を諦めた」などとイメージされる方が多いかもしれませんが、近年では終末期に限らず病気の経過のどの段階でも受けられ、病気や治療に伴うさまざまなつらさを和らげることを目的としています。2006年に制定されたがん対策基本法にもそうした役割が明記されており、病気や治療と向き合う力さらには生きる力を取り戻すために重要だと考えられています。当院ではこの緩和ケアを緩和ケア病棟および一般病棟で提供できる体制が整っています。

●緩和ケア病棟＝その人らしく過ごす時間を支える場所＝

当院では2025年6月より新規に緩和ケア病棟を開設しました。がんを治すことを目的とした治療の継続が難しい、またはそうした治療を希望されない患者さんが、残された時間をなるべくご家庭に近い環境で過ごすことを目的とした専門病棟です。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・医療ソーシャルワーカーなどが日々話し合いをして、一人ひとりに合ったケアを提供しています。病床は16床が全て個室となっており、患者さんにご家族がゆっくりとくつろげるようになっています。また、別室として家族控室が2室あり、面会や付き添いもできる限り柔軟に対応させていただける環境となっています。病床の状況によって、在宅で介護するご家族のご負担を軽減するための短期入院もご相談いただけます。見学も随時お受けできますので、当院にお問合せください。

＝快適な療養環境の提供＝

■スタッフステーション



入口より来棟された方を優しく受け入れる温かい雰囲気です。

■病室



壁は木目調で調度も雰囲気に合わせて設置しており、患者さん・ご家族が落ち着ける空間です。お花やお好きなものを飾って、目を楽しませていただいてもかまいません。

■病室からの眺望



病室の窓からは明るい光が差し込み、遠くの山並みを眺めて四季の移ろいを感じることができます。

■ラウンジ



テレビやグランドピアノが置いてあり、自由に使っていただけます。また、季節のイベント会場として使用することもあります。

■キッチン



ラウンジの奥にはキッチンがあり、ご家庭の料理が作られるように調理器具を準備しています。また、持ち込んでいただいたお食事の温め用に電子レンジやアイス用に冷凍庫などもご利用いただけます。

■特別浴槽



院内で唯一の特別浴槽を完備しており、寝たままの入浴が可能です。マイクロバブル付きの浴槽は体を綺麗にするだけでなく、芯から温める効果もあり、患者さんから非常に好評です。

緩和ケア病棟での実際の様子をイラストで



待望のお孫さんとの面会



愛犬と涙の再開

私たちの緩和ケア病棟で大切にしているのは、病気と過ごさなくてはいけない時間を、安心して「その人らしく」過ごしていただくことです。痛みやつらさを和らげる医療だけでなく、好きなテレビを観たり、好きな音楽を聴いたり、ご家族と穏やかな時間を過ごしたりと、心が少しでもやわらぐひとときを大切にしています。

入院生活では季節を感じることが少ないため、季節ごとの行事や飾りつけを行い、小さな楽しみになればと考えています。そのようなイベントは患者さんやご家族も一緒に行っていただくこともできます。「ここなら安心して穏やかに過ごせる」とご本人、ご家族に感じていただけるよう、スタッフ一同、寄り添いながら支えさせていただきます。



院内の庭園へのお散歩



●一般病棟＝「からだ」「こころ」「生活」を支える緩和ケアチーム＝

チームの中心となる 医師（身体・精神）



身体担当医師は、痛みや息苦しさ、吐き気などの身体的な症状を和らげる治療や調整を行います。一方、精神担当医師は、不安や気分の落ち込み、眠れないといった心の症状に向き合い、薬やカウンセリングを組み合わせながら心の支えを行います。

病気や治療と向き合う中で感じるつらさは、人によってさまざまです。身体の痛みだけでなく、息苦しさ、吐き気や食欲不振、眠れない、気持ちの落ち込み、生活の困りごとなども含まれます。当院には一般病棟に入院されている患者さんの、このようなさまざまなつらさに対応するために、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・医療ソーシャルワーカー・公認心理師など、多職種で構成された緩和ケアチーム(PCT Palliative Care Team)が存在しています。それぞれの専門性を活かし、患者さん一人ひとりの状況や希望に合わせてサポートしています。緩和ケアチームの対象となる病気はがんだけに限らず、心不全、腎不全、肝不全、呼吸不全など幅広いです。

薬剤師



薬が適切に効果を発揮するように確認し、副作用への対応や飲みやすさの工夫を提案します。例えば「副作用を減らす組み合わせ」や「飲みやすい形への変更」なども相談できます。



看護師

日々患者さんと接し、体調や気持ちの変化をきめ細かく観察します。寄り添いながら、その人に合ったケアを考え、必要があればチームに橋渡しをします。



管理栄養士



「食欲がない」「思うように食べられない」といった悩みに寄り添います。食事の工夫や栄養補助食品の活用などを提案し、「少しでも美味しく、無理なく」食べられる方法を一緒に探します。



医療ソーシャルワーカー



医療費や介護保険、福祉制度の利用など、生活面の困りごとと一緒に考えます。退院後の生活やご家族のサポート体制について相談できるのも大きな特徴です。



患者さん・ご家族



このように、緩和ケアチームは「からだ」「こころ」「生活」を幅広く支える専門家の集まりです。治療の有無や病気の進行にかかわらず、「少しでも安心して過ごしたい」と思ったときに気軽に相談できる存在です。

公認心理師



不安やつらさを言葉にするお手伝いをします。気持ちを整理したり、ご家族を含めて安心できるように支えたりする役割を担っています。



患者さんからの声

Aさん(70代・女性)

「治療の副作用で食欲がなくなり、何も食べられなくなっていました。主治医の先生が緩和ケアチームに相談してくれたら、栄養士さんが食事内容を調整してくれたり食べやすい工夫を教えてください、薬剤師さんも吐き気を抑える薬を調整してくれました。少しずつ食べられるようになって、体力も回復してきました。これからもこの辛い治療を続けていくのか…と落ち込んでいたところに来てくれて、これからも頑張る治療を続けていこうという気持ちにさせてくれました。」

Bさん(60代・男性)

「治療で仕事を休まなければいけないことも多く、不安で夜も眠れなくなることも多々ありました。そんな中で、心理師さんやこころの診療科の先生が話を聴きにきてくれたり、ソーシャルワーカーさんが社労士さんに繋いでくれたりしたので、不安が軽減し睡眠薬を使わなくても眠れるようになりました。状態が落ち着いてもチームの看護師さんが日々顔を見に来てくれるので、申し訳ないと思いつつもたわいのない雑談に花を咲かせてもらい気分転換させてもらいました。」

Cさん(80代・女性)

「痛みがひどくて、入院してからは希望もなくただ毎日過ごしているだけで、早く逝かせて欲しいと思っていました。緩和ケアの先生が入って注射の痛み止めに変えてもらってからは、日に日に痛みが軽くなりました。もう全て終わりにしてきたつもりだった趣味もやる気が出てきて、緩和ケアの人たちが来てくれた時に成果を見せるのが楽しみになっていました。身体が痛くて、精神的にもつらい時に心のケアをしてくれたのが私にとって一番大きかったです。」

緩和ケア病棟スタッフ



緩和ケアチームスタッフ



私たちは、患者さんが「私が『わたし』でいられない」ことに対して一緒に悩み、考え、歩んでいく。痛みの専門家ではなく、『あなたの専門家』になれたらと考えています。

当院を受診する方へ **外来のかかり方をご説明します(受付の流れ)**

紹介状がある場合

事前予約あり^{※1}
予約時間に
ご来院ください

事前予約なし
受付時間内に
ご来院ください
(少しお待ちいただく場合があります)

紹介状がない場合

選定療養費^{※2}の
ご負担があります
受付時間内に
ご来院ください

受付時間 午前8時～11時30分

 **本館 1 階：総合受付にて、お手続きをいたします**

* 他院からの紹介状・書類をお持ちの方	各種書類は受付の際に 1 階 総合受付にお出しください。
* 当日の受診枠について	紹介状がない場合、受診できる人数に限りがあります。 定員に達した場合、時間内であっても受付を終了させていただきます。

※1 事前予約について
かかりつけ医に紹介状を書いてもらう際に、あわせて当院の予約も行ってもらうものです。来院時の受付手続きの時間も短くなります。

※2 選定療養費とは
当院は地域医療支援病院の指定を受けているため、他の医療機関からの紹介状を持参せず受診する場合は、原則として診療費のほかに選定療養費(7,700円税込)をご負担いただくことが法令で義務づけられています。

●詳しくはこちらをご覧ください

外 来



救 急




休日診療



アクセス・駐車場



●かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医：健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師のことです。	かかりつけ医検索はこちら 
地域医療支援病院：当院は、2017年8月29日付けで東京都知事より「地域医療支援病院」の承認を受けました。「地域医療支援病院」は、かかりつけ医を支援しつつ、高度・専門的な医療を提供する地域の中核病院のことです。	

救命救急センター（救急外来）の受診について

- 【対 象】 一次救急（直接来院）、二次救急（救急車）、三次救急（ホットライン）
【受付時間】 一次救急→平日時間外（17時～翌朝8時）、土日祝日（朝8時～翌朝8時）
二次救急および三次救急は24時間対応

当院は西多摩八市町村で唯一の救命救急センターのため、数多くの救急車を受け入れています。重症度や緊急度、患者さんの状態により診察順番を決定します。三次（救命）救急対応の救急車搬入を最優先とし、二次救急の救急車搬入であってもお待ちいただく場合があります。来院（受付）順番と診察順番は異なりますので、ご理解のほど宜しくお願いいたします。

一次救急（直接来院）の患者さんへ

青梅市休日夜間診療所でも診察しておりますので、ご利用ください。
【受付時間】 平日夜間19:45～22:30、土曜日18:00～20:45、日祝日9:00～21:45

★「気になったら病院にいこう」最優秀賞 受賞★



日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 東京都地方部会
頭頸部外科月間 YouTube
ショート動画コンテスト 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
副部長 河邊浩明

<https://mg hp.ome.tokyo.jp/diagnosis/ent>



当院耳鼻咽喉科 HP

院内無料 Wi-Fi のご案内
当院では、院内無料Wi-Fiが利用できます。

SSID	Free_Wi-Fi_OMC
パスワード	omc18wifi

新病院本館の1階と2階で利用可能な無料Wi-Fiです。
また、各病棟のフロアでもWi-Fiが利用できます。